



官  
剝  
孝  
義  
錄

卷十四

陸  
奧  
三

9  
1596  
14





1596  
14



孝義源卷之十四

陸奥國三

孝行者勤右郎

勤右郎ハ侯達那大細木村乃百姓なる先祖ハ同一村  
よてかいついとうとふら百六十名ありの田地を開發  
せし者よて祖父の源七事ふいける海をへ家あり  
あり一か父の源七とてやうくよとて語へ出てとハ  
且つよよこるありの田畠とそ持する事と事と  
勤右郎ハとてくより同一郡町小細木村の組頭  
九年次の家よとせしよ天徳七年父をうしむい























その男はくそく親子の贈りし事もろくぞこ  
らぬふもせさのしつと白人もその志を憐みて  
親の料を別よゆせんるといひしつたかく群し  
てうけさりたゆあまこのまれうまゆりか感し  
くその孝ふと遂し免らぬ親乃母ありしつら  
ふ男をあるま事とめてこころいふあゆりし  
今くそれ謀のしはなるん先いまる母そのとた  
を神よいのれとるうは死しそ後の延福をも  
佛よらひしてよとく父母のあよとらるるあ  
めやうあるあ孝くしつとらとらとと地とあり

りりおさしむる松平肥後守よゆへふまの米とあこ  
し獲美せりしれ室永之奉のゆらるるこ

孝行者城定

貞長者同妻

孝行者九次を清

城定は塩屋郡和泉田村乃郷政彦存忠のつひとくお  
さふをを留まるといひしつ十二歳の時目しつと  
あつ十六歳のしつ父羅よあつこころされぬ留ま  
才を幸はしつとくもあつりけしつ大沼郡小碓川村  
ふいしつれらふとくあつとあつしつとく



りこの朝夕乃煙も暮るくもくそをきつるのくち  
 とも父乃罪よとらふもきつる所よとらふのゆゑ  
 乃やとのれをを指しりて墓をつと表の事とつと  
 めく愁へあつとけし見守めらるの苦感一あ  
 りとらふふる主を十一歳ありて父のさへくとも  
 一那境村の百姓長作の娘八歳ありてと親くの  
 りいつりて婚姻の事と定めぬ漸年月と一  
 うつりば娘十三歳の時長作の志と一と族のいひか  
 一いぬ主をい目一あつと清志ととあつて父の罪  
 よ死せり何れもあらせりつと一とくやとく

あり一縁さあありたるを娘乃守傳くくつ見とら  
 縁さあり一とら男老右弟の白紙とく一とら乃  
 事ゆつとらつと父の家とつと肝苦あて致つと  
 事高むつとつと一族とつと小住いあつと今更不  
 幸ありて目一あつとら男とくありあつとも孫所  
 人よゆんとといもつとらとくつとけえは長作も  
 やじ事とつとらつと留主とつと任所まう一と尋ねも  
 とあ小姓川の悪居らつとつと守傳へ媒人一とて嫁娶  
 の事とつとらつとあつと小父のつとせつと約束とつとら  
 志よ語らぬふあつとあつとつとらも今つとつとつと



くあしにふくまの事やあまもことあし何地  
 とも改免嫁さへしとく母と志めしあせしや苗  
 玉さへは染志事しとらうけ娘よ昔けもに又あう  
 尋らうともやさんあふらう地へ嫁せし免わらう  
 測遊もも身を沈むしあつらひるるよ長作いせ  
 んとへうく苗玉太の母あうしとつひやう多し有  
 甲斐もたうし月をわくもそ暮ふしとく苗玉太  
 けつひいささえよやそ娘と呼らうしふけ女姑  
 につらうしあおんやいよ目く影をふよらあ或はの  
 芽と津みあとしつらうらあふいふあう姑

乃夜食といとらうとく母と志めしあせしや苗  
 玉さへは染志事しとらうけ娘よ昔けもに又あう  
 尋らうともやさんあふらう地へ嫁せし免わらう  
 測遊もも身を沈むしあつらひるるよ長作いせ  
 んとへうく苗玉太の母あうしとつひやう多し有  
 甲斐もたうし月をわくもそ暮ふしとく苗玉太  
 けつひいささえよやそ娘と呼らうしふけ女姑  
 につらうしあおんやいよ目く影をふよらあ或はの  
 芽と津みあとしつらうらあふいふあう姑







りく先二使ふとのあつひあつく事いふふのたに  
 海せめ事いふのさあつて十席左衛門とらうよ  
 のさうて市右衛門よじつひはうあつらんのうちが七  
 よ徳代のいふあやうせん中うせよそのよさたつひと  
 いふさうつめりあつてをさうさうよあつらまう  
 とらうひのさうけうらうて十席左衛門死して後七  
 わらうひのさうせうとせうとけ何市右衛門夫婦まう  
 奉若るかに祖父乃不幸よさうのあつて困窮  
 してせうさういふさうもさうつて奉貢やもさう  
 免う子おひ免うこともさうらうと唯久七うらうひ

ひらよてあう入をまめうまう一後いふよ主人の云  
 景をさうひうさうての家の新景を余幸うのうさ  
 ぶらうをいふさういふさう更よさういつさうさう  
 さらり貢納の末進を法くのいおと免候をもり人  
 さんさうくやうく同一村の勤ま清うもさう金四郎  
 乃免券あつくなよおさうのさうてよ久七う奉朝うひ  
 ちらうて市右衛門いふれうのうをさうあえんやあひの代  
 乃金とさうさうのいふさうさうさうさうさうさう  
 一村乃を左衛門といふさうのよはつて奉納乃終金やう  
 まうれ月の代をさうくのいさう奉納のさうもいふ







方にゆくといふに弟獲らるるやうのお又、随分の  
 弟どよつららうの入主の事とてらるる暑る日、暑  
 扇とて持て涼しくし、先を三日、衣服とて  
 とらるるあつたうなる一め、嬰児の事とてい  
 りていぬ事との事とて二親の事も孝なりとい  
 妻の命抱よらぬとてあつたの事とてい  
 らと田畠種ふ乃稼もらるる人の丹襟もく  
 乳よらるる一めとて或時二親をらるるめ  
 くおらるるよりの事とて若石也つららるる  
 らとれいといふ事とていふ事とていふ事とてい

の事とていふ事は、いふ事とていふ事とてい  
 離別せらるるいふ事とていふ事とていふ事  
 といふ事とていふ事とていふ事とていふ事  
 らとていふ事とていふ事とていふ事とてい  
 者よらるるあつたうなる一め、嬰児の事と  
 くあるも天命とていふ事とていふ事とてい  
 け未ら記事のある事とていふ事とていふ事  
 程といふ事も命抱せんとていふ事とてい  
 といふ事とていふ事とていふ事とていふ事  
 いたをの事とて夫婦の別をいふ事とていふ事



せしむるにけしきありたさむる松平肥後守より  
きしきありし元文三年米をあらそくそのけい  
を獲りてせり

孝行者孫六之序

會は初南倉法村乃百姓孫六之席ハ二石六斗あり  
乃田島を振り父ハ孫六を請はく買はしむ者あり  
しかハ孫六之席ハ十之歳より二十日之長あはく質券  
を云はく人ハみよとて親をやしあひしとて  
より貞実なるはせしつとてよくなるも又とらそく  
らそくせりとて二親とて老衰してけしきあり

あはれとてさるものうく衣服或る者親の  
と調はとも事由らるよきとていひよきとせハ親  
の事ハけぬへくそく給金の多かみとてと家  
らる村よ仕へるのゆへにいとよくなるも  
をそく勤のいふあはれとてつとも子孫して親を  
いふとらる事とふかき親望或ハ神事とて休  
むとて日とふハ二親とて見つ親とてあり山島を  
買ひぬるもなる事ハ業履とてあるハ馬の齒を  
つくり又ハな縄大繩あひまの葛藤乃根をやり  
らと竹の子とてとて二親の衣食の料よそあて



ける七年前より領主のすくひとして方の代の合をそら  
 せ百姓よまひ入らくめし親老く年々くくま  
 しまきとくまのうら方をあつちふるまのあうあう  
 ことしといふ二親の側におゆるしてふの中く小巻ひぬる  
 事のおめいさう方よあまのりまをまじめてこととて月  
 ころの朝望よの垢離らりて領主と群れしたるこ  
 かくて深みと席よか乃方うけせすすくひ乃金子ま  
 くとさうくつかへし納よふの沙汰あらししは  
 とたうく耕作よ積をわくやうくじこくくといふ  
 は毎年秋のころめよの各主のまらもち来り滞り

たうく納めその年ころ小早稲刈とさこの焼米とたう  
 けらう上へ初穂とさうらうらうらうらうはとそあふて  
 かりそあせしこととつらう各主のりこへ指系りま  
 後白よと粉よらうここと二親よとめそのころ  
 月福日福念佛講とく月と小巻とのりらう人  
 のつらひ来らる事のあるよその講主よあこれる家  
 小父と連もさうつと懸うこつた初米もあうりあれ  
 小まうそれと懸る外やあるしこ家小と智一講  
 中よつらあつらへしとく親よあつりて樂あつ先  
 又ゆらけと推とかりむらひよゆいしらもあひゆき



且つて出る小昔うらやましくそのゆくりを  
 餐夜とておられたいのはようかへるおひくもしてこのうら  
 もらうのぬくもる愛しくして申おせいふて若松地  
 行るとむろひとて二親の二役よいつらふふいふ  
 もて親との用よそまを所所通く焼たやうけ  
 て親のうく親よまゐるのち小我なともおをくんとそ  
 の身は愛るともいふはひしてそよけらめて親族  
 とて村のうられんくよもむらまのく年貫銭を  
 ろそよのせうりくこやそけ所をあつのおさむら  
 松平肥後守ようくして親よまをあへて寝美せ

且つて文田奉の事とていこえく

孝行者かね

う孫ハ倉津邪系沢村の百姓住持者り妻あり男  
 二病多うして家困窮せしむとてうくしてよとて  
 ひとといとまう一程よまの年くろ冥東へおて登根  
 昔ことと業とくおの村のうらり耕作とてとけ  
 日傭錢をまゝく男姑を妻へり男はくせして姑の  
 跡もるも若こころり多病ありくうおいそり  
 後よこやありくこふくくおの孝養の志る  
 しくそつひまることおとふ茶とこのめるおに







町の多きハき記程ハ姑のもよそのころよそのひり  
 して肌もくそのあまきとあつたうらうら免れ  
 志つありして後よあつて記あつてゆる記衣とかけ  
 しまりの風とあつたあつてその静よしのあま  
 食事れあつてけつと程くあつてあまのりもあつ  
 食もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 とつものよもあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 ありありとあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 多れハ姑のよもあつてあつてあつてあつてあつてあつ

ありたつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 ろにあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 ろりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 かせ目くにあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 ろよあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 てあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 ともあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 吉諸ともあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ  
 ちてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつ



かまへとこれいふまよひて我くこの世の事  
 らる考へる由のいふる事いふる事  
 とらよひの由いふる事いふる事  
 と姑乃見ざる所いふる事いふる事  
 つららるる事いふる事いふる事  
 もに感へる事いふる事いふる事  
 け所とあつらふおこむ松平肥後よ  
 へ兼てあつらふ事いふる事

忠孝者六助

六助は大沼郡横田村の組頭加津右衛門の譜代乃下

なり生れつゝ眞実の事と代乃主人の忠勤  
 あり継父と実母とふつとく孝行する加津右衛門  
 り祖父と依玄清といひて二十石ありの田畠と  
 もとつらつら一か依玄清の奉養にして世に早う  
 その子右衛門も病多く加津右衛門の初め  
 らる事いふる事いふる事いふる事  
 とあつらふ者いふる事いふる事いふる事  
 とあつらふ事いふる事いふる事いふる事  
 加津右衛門見ざる事いふる事いふる事  
 ありありの田畠と代乃に令へ奉養する事











有りておのれをいふとてお返し決せり作ま流らげあひ  
 申しとまらぬ大恩にうけし一人の家の断絶も及ん  
 事なきにいふことあり命にうけしとていふことあり  
 せんよそのお返しはあつとひいさすことありこれ  
 の親類にもとより村のうらみのくもその志乃奇特  
 なるに感しおのれをいふことありとていふことあり  
 のせうこの事もおのれをいふことあり父方の祖父あ  
 り同じ船乗尾後村乃名を治左衛門後えして十二  
 歳のとていふや谷間の夜をいふやうなれは作ま流ら  
 げあひとていふことありとていふことあり命にうけし

成長と申すはつとてお返し決せり作ま流らげあひ  
 申しとまらぬ大恩にうけし一人の家の断絶も及ん  
 事なきにいふことあり命にうけしとていふことあり  
 せんよそのお返しはあつとひいさすことありこれ  
 の親類にもとより村のうらみのくもその志乃奇特  
 なるに感しおのれをいふことありとていふことあり  
 のせうこの事もおのれをいふことあり父方の祖父あ  
 り同じ船乗尾後村乃名を治左衛門後えして十二  
 歳のとていふや谷間の夜をいふやうなれは作ま流ら  
 げあひとていふことありとていふことあり命にうけし







下とつひ乃みきし一程よ作ま湯ハ市志為のあり  
 一のありとるも市志為のよ教へとらと公用ハりよ及ハ  
 一と村乃ら此奉貢との滞る事ありおと先とせ  
 一より作ま湯生起しといととらりてと主人あこと  
 一村人への應對よつとと深く臨みとと事いと  
 一けりもあてき若とと思ふ事と教養術を授きて人  
 一のといとけとらりこれいとけりこより作ま湯一り年  
 一れハゆりなとを惜とけりこれよ市志為つとせふ一  
 一六十日ハ程いとらりといとと月代をそらと  
 一程とふ墓宿して妻の事を勤へるとけり

ありありおさじら松奉肥後よりとらと一に茶とあ  
 一とく貴せしハ延喜四年の事ありとら

孝行者久七

大沼郡西谷村の百姓久七ハ石と斗ありこれ田畠と  
 一耕しんとたり律義ありて父母よつとと孝り  
 一ありとと父を十志とといつともらり家ありとと  
 一やとと福とありとと母の質券もく人のもこと  
 一つととれは家よハ父子のともとと艱難よ世をとり  
 一より久七ハ業乃美の法より目一村乃名と法也  
 一ふつとと二年程乃年ととと十七歳の時ハ目一



村乃助左衛門といふものも借券もく合とあふ  
 をうりその身代り金もく母の身代りもく  
 してこそ其後も奉納とつる度とらふ借合とつる  
 さふれつゝの雇作ともくその年の暮つたあひの  
 るとらしてまゝ二親乃料とそつるゝつては  
 乃時より回し取川口村の忠義流とつるもの  
 へ又為岩村へ入りて君七といふものも身を賣つて  
 之分乃金なりし今もそれおよそまじり  
 めても篤実の義をこれいふ人よあつた  
 とらへて陳時乃義もつらげその久七もつらげ

まん一奉の首とつらめ出義をふらつて  
 直のことつらゆけ徳の義の借借ふあつた  
 族をとりめ組合乃ふ人の身代りもく一村のもの  
 志つてと借券もく贈つてつるものもあつた  
 ぶらつて奉りしもの川口村乃忠義流とつる  
 女いじりしつらぬめつらつて後いふ人の家  
 あつたものつらつてつらつてつらつてつらつて  
 風のつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて  
 ともつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて  
 奉りしつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて



















の及ぶところよあつたりきりある村を志す者ありき  
 くのと志するふあつたり近人くれ家乃そとも  
 かり何ひと志すたもるたしふ妻とらあつたり  
 三つあつたり氣多よく村とらあつたりに遊む  
 妻におのくれ方へをり出ゆとらあつたり弟履を脱  
 ぎしとらあつたりとらあつたりとらあつたり  
 くむけくそあつたりとらあつたりとらあつたり  
 志すところ折つて引つたしとらあつたりとらあつたり  
 海くにとらあつたりとらあつたりとらあつたり  
 来とらあつたりとらあつたりとらあつたりとらあつたり

のくところへ出たれは兼とあつたりとらあつたりとらあつたり  
 せり

忠孝者孫助

忠孝者志は

孫助夫婦は久沼郡志村の百姓名吉より初るり  
 志不の同く那川に村の志志志の娘とく孫助の家  
 ところり十二年あつたりとらあつたりとらあつたり  
 といふとらあつたりとらあつたりとらあつたり  
 これより十一年前よ夫婦は人よとらあつたりとらあつたり  
 ところ海つ同く村の利志志といふ者に一年つとらあつたり











して水五月乃ほあひの二町ありりいりある清水  
 とくといへりある一宿よそれともくといへりある  
 もめりりししとて食物とゆる事あり事ハ必姑れ出  
 産とそまけりける者ともる事ハ親族ハ又も  
 いとて村ららの人くにもゆめやうるりありあひ多  
 減よといひともる事ありありといへ出され  
 ハ無地とありりのおさひら松平肥後より支婦ハ  
 身乃代の金とありりその身とありりといへり  
 こと主人乃名吉ハ孫助支婦乃孝養をとけさ  
 せし事乃奇特なる事也とゆゆを新しと

その志を盡し若せしめこと天明和五年とそふさ  
 えし

孝行者名古郡

若古郡ハ倉津郡播磨村の百姓よくと名三平あま  
 且此田畠ともてり父を勤之樂といひて七十歳乃  
 ころより十一歳若小眼とやとて年二十後醫療  
 をまけしけりことその志もあつて今日目しあよ  
 ともるは家乃うられ新歩もくるとりといへそれ  
 うらふよと十九歳乃母も十八歳とのこり病多  
 割ももくもといへり親ともいへり若古郡の長



をのこ待し程よ年月よ勤しこりや海へこれ  
 田代乃うらうそこちととととにを記のりその分抱の  
 費とそまけつものありけはいよ記といひもせんうそ  
 ありのしやと谷を彫むれつこ篤実うしてこま  
 公の法をまへしこらうよ質地乃のありと耕し  
 ろうとも貧乏の滞る事う村のうられ振をり  
 親族中この里人乃定と懐しこ先祖乃ありうよ  
 誠とさう二親の福よ傳してい年月忘るゑう  
 親父の飲食もの海川こ中ありうそれ好とと  
 うる毎いう有様よく記う相うふ事ありと和と

との道に落らうとゆめやこあひまこあこあこ  
 折も免つらうこ物なこれの免角して個とと  
 免しこ二親よいうとも志とせとさうそれん  
 登すんこ事のううつらあける家居乃つらひ  
 とこもあゆとこつらわんこ風とまこ  
 時々のこやゆらにこけは母れつと案し  
 こらうひらる隣ちこ負ひ初しこそ村人のこ  
 小目こいとも入よのこまこ耕したをせつ社に  
 建もひらの父の二親乃分抱うあまここまこ  
 こそんこれカとあらせとそ其費とつら出妻と







ころ城下の市に背負ひ出くそのころ志らくし  
 髪ゆひ月代ころ車中くもえよからぬ程よん  
 を用ゐぬある時寅之助い孫よむひころちやまひよて  
 愈んころころ是東おそれ何ちんありとも兼家一  
 してふともやえんしてふともははれ進んころに  
 小登と志つころはゆよのまじとむんは家正つころ  
 めんたころころえけるにころの支母乃ころひをな  
 しいころころころせよ海じともふ人の病者と初よ  
 ともととととしころひころ乃ころとさめんと思  
 ひもころころころも家子れあひころと樂まんか

りころころころ孝貞とそころの舅市左衛門いよくま  
 の妻ころころころの進善信孝ところころころころ  
 ころころころころころころころころころころころ  
 肥後書よとえけころの兼とあころころ懐美せころ安永  
 二年九月とるん

貞長者の門

まのの久沼郡禮尾村乃百姓基十郎ころ妻あり基十郎  
 の父祖の代より貧民ある年月不幸乃ころころころ  
 ころころ私の相ひぬ多うのころと親族も又貧しく  
 してたころころものもあころころころころ合津







とんまをいへりてまの身はれ全とすのく  
 一の毛をゆきしとま年あましくあそくけりく  
 一のまのまをせしけり日用乃錢をと送り男  
 姑世のあつし種は孝養とすし一膝にまを  
 あつてくしけりけりけりけりけりけり  
 まもりて行ひしけりけりけりけりけり  
 あつてく真流乃養をさすし一地をありあり  
 じろ松年肥後さるのとあん時天明と奉のるあり  
 奇特者表在也  
 會津郡針生村の百姓石右衛門の生まじつと篤実あり

して石八斗ありけ田畠ともてり七奉と記の凶作こ  
 のと肥後さるり志とく救いしとけりれとのま  
 組あふ五人の申の一人はあまじつとありしと  
 いつらつらあまじつとあまじつとあまじつと  
 あまじつとあまじつとあまじつとあまじつと  
 と全うしおひめをつくのひとつとつと百姓よま  
 ころる物もあらんとく貢物乃米をとたさめ備材  
 ともつとあまじつとあまじつとあまじつと  
 一のい人を軽んて奉賞郡役ふかのまじつとあまじつ  
 一のいものをあまじつとあまじつとあまじつと



いまだくちりにいけ田畠或いふりせさるふりよおふ  
 時ハ娘とてまのちりしめ夫大をいよくむるこ  
 とこころありと又三人の申の親族ある者ハ父祖の  
 位牌とてり家よりつとていふあまのいさうり乃  
 素とまうけしも又孫んちるるの二親世よをく  
 母ハ孝義乃志深く人くこれおけれりこよもたの  
 せりこてこの取紙ありなりなむむる松本肥後ちり  
 くとくこいへいこの取紙ありとて賞せくと寛政  
 元年此事とふん

貞義者ちよ

ちよの倉津郡田代村の谷三忠三清のつとあり生れは  
 とし宗和よりして中この海光やありとて父のちよ年  
 ちり熱病をうせし人乃父のちよありとてけしと  
 免とてその子清三忠よありとてちよと療養のせせ  
 こつと七八年世このいよとてちよとて家乃内のお  
 ちよもあるとちよちよれいちよとてちよとて守りれ  
 こちよとちよちよちよちよちよちよちよちよちよ  
 ひよとちよちよちよちよちよちよちよちよちよ  
 てもあちよちよちよちよちよちよちよちよちよ  
 の義ちよちよちよちよちよちよちよちよちよちよ







松平肥後より寛政三年といふ年とありて  
そ乃貞義を褒めたり

忠義者六郎玄清

六郎玄清は會津郡倉谷村乃産あり同く郡川橋組  
の星金吾といへるは同屋敷のありては主の役  
を子又觸継といふ事ともいへる事志を  
ては家おろふ事初は母六郎玄清の産右義といへる事  
只二人といふ中よも六郎玄清は田畠の事よりり  
めく家の事とも申す事とて耕作乃業に  
あん在りてこの事おもふ事とて酒を好

しこの事とて年金吾といふ事とて  
あつては満もはよふ事とて去年九月乃  
夜病乃病とてあつては金吾の家こそりてそ乃  
病よゆけり病こそやけ病乃人よりつりやとて  
とては人よくとて親跡の事とてあつて  
とてはつては村里のありひあるよ六郎玄清といへる  
もいへる病ありてそれ抱ふ事とて同く郡川橋村  
小醫者老のありては病乃病とてあつては  
その藥とておめ村の中は事あつても人よつりて  
つてはつては親とては病の事傳へその病よ



うつりそゆん事やうきくくさういし里よまう  
 事とつひをこせしに年月日人のあさけゆる  
 あり今更こくる難難をえ替んとたふすいつの  
 ありとも我んをさうはも一回し福よ流じと  
 もいつしもれぬ抱りうらふうくそく命おしくとも  
 ぶんと醫茶ととと免神佛よちうひふくしてそふか  
 復をいのりける復にこのれら西行乃ま道よつてこ  
 えてんよつふる者の鏡とあり寛政三年比をわ  
 つうおさむる松平肥後おさむし一六茶とあり孝義録  
 孝義録卷之十四



